

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800259		
法人名	株式会社エルフ		
事業所名	くつろぎの家エルフ・神陵台		
所在地	神戸市垂水区西脇1丁目4-9-1		
自己評価作成日	平成29年2月13日	評価結果市町村受理日	平成29年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年 3月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関係を大切にしている。散歩を朝夕と推進しているが、入居者の健康と合わせて地域の方々との挨拶や地域のお店での買い物により理解を深めて頂くように心がけている。ユニットごとの入居者同士、職員との相性、適性を考慮している。入居者様が個々の時間を思うがままに過ごして頂けるような支援を心がけている。その時々に応じた時間の過ごし方をさせていただいている。かかりつけ医の訪問診療だけでなく皮膚科、精神科、眼科、整形外科等の受診援助も行っている。家族様との関係性が途切れないようこまめに連絡をさせていただき近況報告や相談をさせていただいている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所が開設されて3年が経過し、ご近所から自家栽培の野菜が届けられるなど、良好なお付き合いが芽生えている。トライやる・ウィークの中学生から、「人のあたたかさを学んだ」という感想が綴られた小冊子も届いた。法人の理念である「普通の生活・高齢者の価値を下げない」は、簡単な様で奥深い言葉である。毎年徐々に状態が重度化して行く傾向の利用者に対して、職員は利用者個々のニーズに添ったケアを日々行いながら、人生の先達として利用者に接している。両ユニットに於ける利用者の状態に軽重の差は有るものの、リビングの壁面は利用者の楽しい作品で飾られ、入所後もそれぞれの趣味を継続して楽しむ環境作りが支援されている。事業所の建物内には地域包括も併設されており、文字通りこの地域の福祉の拠点としての発展が、今後とも期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社の理念掲示している。内容を要約し短文での掲示も行っている。また、入社時の説明は必須として行い随時職員への周知を行っている。	法人の理念である「普通の生活・高齢者の価値を下げない」を掲示して、職員に周知している。利用者の状態によって異なる個々の「普通の生活」を送る為のニーズの把握と、利用者を人生の先輩として接するケアを日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣スーパーへや大型施設での買い物同行を支援している。喫茶店の利用や散髪など個別支援を行っている。	事業所開設後3年を経て、地域との触れ合いも増えつつある。家庭菜園で作られた野菜が届いたり、散歩の道すがら挨拶を交わす。トライやる・ウィークでは4名が訪問し、お話しをしたりマジックを披露してくれた。訪問時の感想を綴った小冊子が届いて職員は感激した。事業所として自治会の会員になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの要請で説明会を行ったりキャラバンメイトの講師を務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している。議事録を回覧するとともに玄関での自由閲覧ができるようにしている。神戸市の指導やそれに対する改善策の実施等を随時報告している。	隔月に開催している。自治会長や地域包括から地区の情報を得ている。作成した議事録は、地域包括を通して市へ渡っていると思われるが、管理者が直接送ったり渡したりはしていない。	議事録は、市及び会の全委員と全家族に送るようにされたら、連続した情報の共有が出来るのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者様が多いこともあり垂水区保護課とは常に密接に連絡を取っている。家族様へのアプローチについても常に相談しながら進めている。	管理者は、約3分の1の利用者が受給している生活保護の関係で、区と密に連絡を取っており、市とのコンタクトは主として法人本部が担当している。地域の事業所連絡会の活動に関しては、把握できていない。	地域包括を通じて、地区の事業所連絡会への参加を検討されたらどうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り無施錠の取り組みを実施している。入り口テンキーは開錠番号を添付している。	併設されている地域包括事業所と共用の玄関が有り、事業所と玄関ホールの間は電子ロックとなっている。開錠番号を貼っているが、利用者がロックを解除してドアを開ける事はない。家族からの要望で、センサーマットを使用している利用者がいる。	センサーマット使用の安易な常態化を避けるために、継続使用の是非を定期的に検討して頂きたい。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内研修で必須項目として研修を実施している。また外部研修への参加もし伝達研修も行っている。	市主催の虐待防止研修に3名が出席し、伝達研修を行った。精神的な虐待に該当する様な強い口調の職員を時々見掛けるので、管理者やユニットリーダーがその都度注意をしている。全職員が、法人のシステムを操作してストレスチェックを受ける体制が出来ている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修や説明を行っている。資料の準備もしているが実現例はない。今後も状況により検討してゆきたい。	現在、制度の利用者はいない。契約時に制度の説明は行ってないし、家族会で説明した事も無い。	事業所内に資料を常備し、概要について職員が学ぶとともに、契約時や家族会で手渡されたらどうであろうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に丁寧に時間をかけて説明し理解・納得していただいている。	契約時に家族の多くが心配するのは、利用者の状態であっても生活が出来るかどうかである。手足の運動や、ボールを使ったレクリエーションなどを組んだ個別の介護計画を作成する旨を話し、安心と納得のうえでの契約となっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加をよびかけている。家族会では個別の意見をいただき職員への周知を図り計画作成にも反映している。	毎年2回、夏祭りや餅つき大会という行事の前の時間帯で、近隣事業所と合同の家族会を開催している。法人からの報告後、各事業所毎の分科会となる。家族が来訪する都度、話を聴く様にしている。職員の名前が分からないという意見も有った。	顔写真と名前を張りだしておけば、職員の異動が有った際の告知にもなるのではないだろうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見を聞き提案を聞く機会を設け、反映させている	定期カンファレンスの開催により討議できている。議事録は回覧周知させており日々のケアに反映させている。	ユニット毎のカンファレンスを毎週開催しており、利用者の状態についての検討と共に、職員の見解や要望を聴く機会となっている。車椅子の搭載が可能な車両を、近隣の事業所から借り出しているが、事業所占有車両の購入が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の都合を優先・考慮した勤務体制を心がけている。残業は無いよう指導実践している。有給取得職員の希望は可能な限り聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を希望する職員については勤務体制を考慮している。所内研修の実施により研修報告を提出、フィードバックしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等への参加の機会はなかなかない。相互訪問の機会も現状では行えていない。			
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	詳細については可能な限り聞き取る努力をしている。家族様からの聞き取りも併せ事前情報として職員への周知を行っている。			
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とのお話はじっくりと聞かせていただき、連絡もこまめにさせていただいている。遠方の家族様へはくつろぎ新聞にて日頃の様子をお伝えしている。			
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初は詳細に記録をとりさまざまな角度から情報収集を行っている。職員間での情報共有により随時対応できている。			
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がおできになることは極力御自身でしていただけるよう働きかけている。職員は常に感謝の気持ちを言葉にして伝えるように心がけている。利用者様に教えていただき学ぶという姿勢で臨んでいる。			
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院支援・外出支援に際し家族様の協力を得られるよう働きかけている。施設内行事・運営推進会議への参加も促している。			
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけることや手紙を出すお手伝いをしている。	利用者に電話を取次ぐ際には、子機を渡して自由に話して貰っている。家族や旧友が来訪した際は、居室かリビングのソファで話すことが多い。初詣で毎年出掛ける神社、演奏や腹話術で定期的に来訪するボランティアなど、入所後の新しい馴染み作りを支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性が良好に保てるよう配席には配慮している。個別でお話を聞かせていただき互いの理解が深まるよう橋渡しをするなど心がけている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者様の自立の協力として、ボランティアとしてお手伝いに来て頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人と向き合いお話しするよう努めている。ご本人の希望をお聞きしその思いが叶うように心がけている。	コミュニケーションが難しい利用者もあるが、根気強く話を合わせながら、想う処を汲み取る様になっている。モップでの廊下拭き、洗濯物たたみや食後のお膳拭きなど、利用者が出来ることを職員がその都度確認しながら、一緒に作業している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りを元に、日頃の会話の中で得られた情報を職員に周知し、記録等でも情報共有ができるよう努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの低下防止を念頭に置きここに必要なサービスを提供している。できられることは積極的に実行していただけるよう配慮している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を軸とし職員間での意見交換を行っている。日頃のきずきを担当者会議やカンファレンスノートを通じて共有しケアプランに反映できている。	ユニットの全職員が全利用者のケアをするという体制となっており、ユニット単位で利用者の状況をカンファレンスしている。介護計画の短期目標のニーズに関し、管理者が把握した状況を基にして、半年毎にモニタリングしている。医師の往診や看護師からの情報を参考に、利用者、家族、ユニットリーダーが参加する担当者会議で検討し、半年毎の介護計画作成につなげている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート・介護記録日誌・連絡ノート・カンファレンスノート・議事録等により情報を共有できおり介護計画に反映できている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事・外出等個々の好みや希望にあわせた対応が行えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問が毎月ある。音楽等の鑑賞や参加することで楽しんでいる。又、訪問理・美容の利用も随時されている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を定期受診されている。又、個人のご希望や状況に応じ通院支援もおこなっている。	契約時に、利用者、家族納得のうえで、協力医による訪問診療を利用してもらっている。その他、必要に応じ訪問歯科や眼科、心療内科等の利用も可能で、歯科の利用は多い。中には利用者からの希望でマッサージを利用している人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連絡ノートにより日常の詳細を把握し日地用事項は伝達できている。又、必要時は 看護師も随時対応・相談を行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は小まめに訪問し病棟看護師と話す機会を捉え情報収集に努めている。病院関係者(SW)との連絡は密にとっている。	入院はできるだけしないよう、日々の健康管理に努めている。やむをえず転倒骨折から入院した場合は、管理者及び看護師が見舞い利用者に声かけし、医療関係者と情報交換を行っている。早期退院に向け、入院前からの馴染みの職員を中心に、受け入れに向けた支援体制を整えている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の意思確認を行い相互に理解はできている。文書交換による確認も随時行っている。	契約時に事業所の方針を説明、納得を得ている。利用者の状態低下や入院等に応じて、利用者や家族と話し合い、意向を確認している。事業所の方針に添ってできるだけ利用者、家族の意向を尊重し、不安をなくすよう配慮している。ターミナルの対応についてはマニュアルにより職員に周知を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制等、日頃より話し合い確認している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難場所を張り出している。日頃の会話の中でも場所の確認を行っている。	消防、避難訓練を年2回定期的に実施し、2回目は今月の予定である。毎回火元を想定し、利用者も一緒に避難経路を確認しているが、夜間想定については十分ではない。運営推進会議で、防災についての避難場所等の指摘が挙がったが、地域との協力体制と併せて検討課題となっている。	まずは夜間想定での訓練をお願いしたい。又、運営推進会議で協力体制について参加者からの助言や提案等を促し、少しずつでも関係性を築いていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内での介助であっても必ず「させていただいている」という心で接するよう指導している。	理念を基本姿勢として、職員には注意喚起している。新人研修の折には、認知症への理解と併せて重視して伝えている。普段の声かけや対応等についての適切なケアや、入浴や排泄時での羞恥心についても随時会議等で伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能であるよう声かけを行い、選んでもらえるようにしている。何事にかかわらずご本人の意思を確認した上で支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の得意分野や趣味を把握することによって、したいことをしながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や身だしなみについてはさりげなくアドバイスさせていただいている。衣類の汚れや乱れについては随時注意し清潔に過ごして頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の準備などで一緒にできることはお願いしている。	委託業者から調理された物が届き、事業所で盛り付け、ご飯と汁物はこちらで用意している。利用者は、主に盛り付けや準備、後片付けなどを行っている。利用者は、自分のペースで食事をしており、必要に応じて職員が介助に入っている。食事中はBGMが流れ、落ち着いた雰囲気となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人のペットボトルを準備しており水分摂取量が十分であるよう支援している。食事摂取については記録をとっており不足時には高栄養飲料の提供をしている。体重測定は毎月施行。記録している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々に適した方法で各自治に実施している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度の重い方についても1日1回はトイレでの排泄を支援している。排泄記録もとっている。	部屋のオムツ使用はあるが、トイレでの排泄を基本としている。職員は利用者個々の習慣に応じて声かけし、さりげなく誘導している。オムツの場合でも、その人のリズムに添って交換等を行い、気持ち良く過ごしてもらえるよう努めている。利用者のサインを見逃さないよう、丁寧に観察している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージを行ったりヨーグルト、乳酸飲料をすすめるなど積極的に行っている。排泄記録をとり医師や看護師相談し緩下剤等での調整を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週間での予定はあるがご希望に応じ随時対応している。	少なくとも週に2日の目安はあるが、利用者の意向や失禁時には、臨機応変に対応している。午前が主であるが、時に午後に入ったり職員を代えるなど、無理強いにならないようにしている。歌を歌ったり、職員との会話を楽しむなど個々にくつろいでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿い照明・室温には細やかに配慮している。寝具・暖房器具等についても細かく調整できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排泄状況等は細かく記録しており医師・看護師への連絡・相談により連携をとり服薬調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みのものが提供できている。レクリエーションでは卓球・百人一首・トランプ・カルタ等で気分転換をしていただいている。又、ボランティアの訪問時は音楽を楽しまれている。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大型施設でのショッピングやカラオケ・食事などの機会を設けている。季節ごとの外出行事や外出の日を実施している。	利用者の要望に応じて近くの公園や近隣の店で買物、食事に行っている。夕方の散歩を日課にしている人もいる。季節の花や行事を観に行ったり、中にはお正月に、家族と自宅で過ごすこともある。家族の協力についても働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人預かり金を保管しておりご本人の希望に沿って使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けておられる。個人携帯をお持ちの方もおられる。手紙のやり取りについては投函のお手伝い等もしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には手作りの表札を掲げている。ぬくもりを感じていただけるよう配慮している。トイレ等は不快臭が無いよう掃除等を小まめに行っている。照明や空調についても小まめに調整している。	リビングは天井が高く、天窓からの陽が差し込み明るい。キッチン、事務所をはさんで両ユニットが併設され、時には開放して一緒に行事を楽しむ。掲示されている外出時の写真からは、利用者の楽しそうな様子がうかがわれる。利用者は食卓テーブルやソファで思い思いにくつろいだり、卓球に講じる人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを配置しており各々が自由に居場所を求め思い思いに過ごされている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族様の了解を得た上での模様がえや整理整頓を行っている。その都度ご本人と一緒にさせていただいている。	居室内だけでなく居室入口の壁にも、その人の塗り絵や手作り作品が飾られている。小型のクローゼット、ベッドが常設され、薄い置畳を敷いている人もいる。自作の絵や家族の写真を飾ったり、仏壇にお供えをしお詣りしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人がそれぞれに思い思いの時間を過ごされている。考え込まれている時や表情の硬いときなどはさり気ない声かけでお話させて頂き、考えておられることをお聞きするよう努めている。		